

IV 学習指導計画実践事例

1 実践事例 1 <保健教育> (熊谷市立大原中学校)

保健体育科 (保健分野) 学習指導案

平成30年11月6日 (火) 第5時限 体育館1階

第3学年2組 男子20名 女子17名

指導者 (T1) 教諭 長谷 真由美
(T2) 養護教諭 長谷川 円香

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 Ⅱ 感染症の予防

2 単元について

小学校では、健康の大切さや健康によい生活、病気の起こり方や予防などについて学習していることを受け、本単元では、人間の健康は主体と環境がかかわり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためにはそれにかかわる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにする。また人間の健康は生活行動と深くかかわっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に合った食事、適切な運動、休養及び睡眠生活を続けることが必要であることを理解できるようにする。さらに健康の保持増進や疾病の予防には人々の健康を支える社会的な取組が有効であり、地域における健康増進、疾病の予防のための地域の保健活動が行われていることを理解できるようにする。

3 生徒の実態 (省略)

4 教師の指導観

本単元の感染症の予防については、事例を通して疾病概念や感染経路について理解し、学習したことを整理したり、個人の生活と関連付けたりして自他の課題を発見させていく。感染症を予防するには発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であることを理解させ、習得した知識を自他の生活に適用したり、役立てたりして、健康の保持増進を図る方法を選択させる。本単元に関わるアンケートで得られた結果を基に、エイズや性感染症への関心の低さや規範意識の薄さが、感染の低年齢化や増加に繋がってしまうことを理解させる。そして正しい知識を持つことや、予防方法を身に付ける必要性についても理解させる。ここでは習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして感染するリスクを軽減し、健康の保持増進をする方法について話し合わせ、そこで話し合ったことを、筋道を立てて伝え合い思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。これらの学習を通して、現在及び将来の生活で課題に直面した場合に、適切な判断の基に行動できる力を身に付けさせていく。

5 単元の目標

- (1) 健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え判断し、それを表すことができるようにする。 【思考・判断】
- (3) 健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解できるようにする。 【知識・理解】

6 評価規準

	単元の評価規準	学習活動に即した評価規準
関心・意欲・態度	健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	① 感染症の予防について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ② エイズ及び性感染症の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
思考・判断	健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	① 感染症の予防について、学習したことや資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ② エイズ及び性感染症の予防について、学習したことを自分たちの生活と比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。
知識・理解	健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解している。	① 感染症は、病原体が身体に侵入して発病することや、発病には自然環境、社会環境、主体などの条件が関係していることについて、書き出している。 ② 感染症を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であることについて、言ったり、書き出したりしている。 ③ エイズ及び性感染症の疾病概念や感染経路、予防方法を身につける必要があることについて理解したことを、言ったり書き出したりしている。

7 単元の指導と評価計画（4時間）本時は〇印

時	ねらい・学習活動	関	思・判	知・理	評価方法
1	<p>【感染症】</p> <p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防について、資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 ・感染症は、病原体が身体に侵入して発病することや、発病には自然環境、社会環境、主体などの条件が関係していることについて、書き出すことができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：本時のねらいを確認する。 2：感染症は、病原体の感染によって起こる病気であることについて知る。 3：感染症の発生要因について、事例をもとにグループで考える。 4：感染症の発生要因には、自然環境、社会環境、主体の状況が相互に関係していることを確認する。 5：本時のまとめと次時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であること ・発病には、自然環境、社会環境、主体などの条件が関係していること </div>	①		①	観察・ワークシート 観察・ワークシート
2	<p>【感染症とその予防】</p> <p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防について、学習したことや資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。 ・感染症を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であることについて、言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：前時の復習と本時のねらいを確認する。 2：病原体から体を守る仕組みについて知る。 3：感染症を予防する方法についてグループで考え、まとめる。 4：グループでまとめたことを発表する。 5：新興感染症や再興感染症の発生や流行について知る。 6：本時のまとめと次時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であること </div>		①	②	観察・ワークシート 観察・ワークシート
3	<p>【エイズ及び性感染症】</p> <p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ及び性感染症の疾病概念や感染経路、予防方法を身につける必要があることについて理解したことを、言ったり書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：前時の復習と本時のねらいを確認する。 2：エイズ及び性感染症の現状や疾病概念について知る。 3：エイズ及び性感染症の感染経路についてまとめる。 4：本時のまとめと次時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ及び性感染症が増加傾向にあること ・エイズ及び性感染症の疾病概念と感染経路について ・エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルスであること ・エイズの感染経路は主に性的接触であること </div>			③	観察・ワークシート

④	<p>【エイズ及び性感染症とその予防】</p> <p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ及び性感染症の予防について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 ・エイズ及び性感染症の予防について、学習したことを自分たちの生活と比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：前時の復習をする。 2：感染者の低年齢化について触れ、エイズ及び性感染症の予防方法を身に付けること必要性について理解する。 3：本時のねらいを確認する。 4：グループ活動Ⅰで予防方法について考える。 5：グループ活動Ⅱで予防方法についての考えをまとめ発表する。 6：20代の自分にむけてメッセージを考える。 7：啓発資料や検査や施設を実施している施設について知る。 8：本時及び本単元のまとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ及び性感染症の予防方法を身に付ける必要があること ・エイズ及び性感染症の感染者が低年齢化し、社会問題となっていること ・エイズ及び性感染症を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であること </div>	②	②	観察 観察・ワークシート
---	---	---	---	---------------------

8 本時の学習と指導（4/4）

（1）ねらい

- ・エイズ及び性感染症の予防について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 【関心・意欲・態度】
- ・エイズ及び性感染症の予防について、学習したことを自分たちの生活と比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 【思考・判断】

（2）資料及び準備するもの

プロジェクター、スクリーン、パソコン、グループ用ワークシート（模造紙）、付箋（4色）、個人用ワークシート、グループ活動用資料、タイマー、マジックペン、

（3）展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点及び評価（指導○ 評価◆）
導 入 1 0 分	1 前時の復習 ・エイズ及び性感染症の疾病概念や感染経路、感染者数が増加傾向にあることを復習する。	○前時までの性感染症やエイズの疾病概念や感染経路、感染者数の増加傾向について、スライドで確認させる。(T1)
	2 主な性感染症の感染状況のグラフや年代別感染者数のグラフから考える <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">Q1:20代や30代の感染者が多いのはなぜだろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・主な性感染症の感染状況のグラフを見て ・年代別感染者数のグラフを見て、20代～30代の感染者数の多さに触れる。 ・正しい知識や予防方法を身に付ける必要があることを理解する。 	○主な性感染症の感染状況のグラフを見て、それぞれの感染の多さについて説明する。(T1) ○最も多い性器クラミジア感染症について取り上げ、年代別感染者数のグラフを用いて、20代～30代の感染者の多さやについて説明する。(T1) ○性感染症の感染者の中に10代がゼロでないことにも触れる。(T1) ○Q1の発問をする。(T1) ○感染していることに気づかない場合や、感染していても月日が経過してから発症した場合について押さえ、正しい予防方法を身に付けることの必要性について伝える。(T1)
	3 本時のねらいと学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">エイズ及び性感染症の予防方法について考えを深めよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいと学習内容を確認し、授業の見通しをもつ。 	○本時のねらいを書いた紙を白板に掲示する。(T1) ○本時のねらいと学習内容を説明し、授業の見通しをもたせる。(T1)

4 グループ活動Ⅰ
(予防方法・対策行動を検討)

- ＜グループ活動の進め方＞
- ①4人グループの中であらかじめ、ABCDに分かれる。
 - ②同じアルファベットでグループをつくる。
 - ③それぞれのグループが担当となったテーマについて考え、出された解決方法を各自の付箋に書いていく。

＜話し合いのテーマ＞

- A：性器クラミジア感染症の予防法や対策行動
- B：りん菌感染症の予防法や対策行動
- C：梅毒の予防法や対策行動
- D：エイズの予防法や対策行動

Q2:感染を防ぐためには、どんな予防方法・行動が大切になってくるだろうか？それぞれの感染経路や症状をヒントにして考えよう。

＜予想される生徒の意見＞

- 性的接触をしない
- 病院に行く
- 抵抗力をつける
- 検査をする

5 グループ活動Ⅱ(KJ法で整理及び発表)

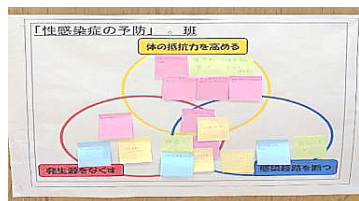
- ＜グループ活動の進め方＞
- ①自分で書いた付箋をもって、最初の4人グループに戻る。
 - ②グループ活動Ⅰで挙げた意見を、現在の4人グループで見比べ、整理する。
 - ③さらに教師からのQ3の問いについて考える。

Q3:普段の生活の中で、自分たちが今からでも気をつけられることには、何があるだろうか？

＜予想される生徒の意見＞

- 清潔にする
- 体調管理をしっかりとる
- 早く寝る
- 抵抗力を高める

・発表にむけて役割分担をする。



- ・グループごとに、まとめた意見を発表する。
- ・性感染症の予防方法や対策行動について学ぶ。

- グループ活動の手順について説明する。(T1)
- 素早くグループが集まれるように、各グループの集合場所を提示する。(T1)
- Q2の発問をする。(T1)
- 担当した病気の予防方法や対策行動を、グループごとに集まって考えるよう指示を出す。(T1)
- 活動時間を示し、たくさんの意見を出すよう促す。(T1)
- 机間指導で生徒の考えを引き出す。(T1、T2)

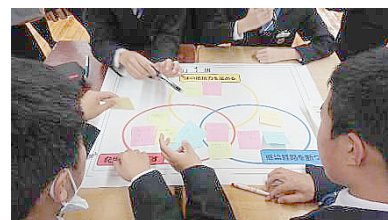


◆エイズ及び性感染症の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
【関心・意欲・態度②】

＜努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手当て＞
・資料を提示し、病原体の特徴に注目させ、適宜ヒントを与える。

- 最初の4人グループに戻るよう指示を出す。(T1)
- 感染症を予防するために大切な3つの対策とは、何があったか問いかけ、思い出させる。(T1)
 - ・3つの対策…感染源についての対策
 - 感染経路についての対策
 - 体の抵抗力についての対策
- 活動Ⅰのグループで出た意見が書いてある付箋を4人で見比べ、3つ対策に分けるよう指示を出す。(T1)
- 机間指導を行い、生徒の活動の進行を把握する。(T1,T2)

- Q3の発問をする。(T1)
- Q3の発問から、自分達が今からでもできる対策行動についてグループで相談しながら考えさせる。(T1)

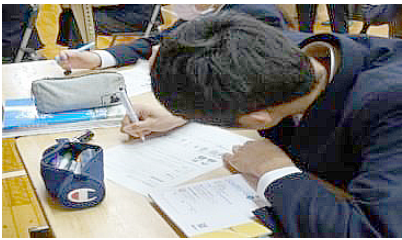


- 発表に向けて役割分担をさせる。(T1)

- ・用紙を持つ人(1人)
- ・挙げられた予防方法を発表する人(2人)
- ・10代でもできる対策を発表する人(1人)

- グループごとに予防方法と内容を発表させる。(T1)
- 発表者の方に体・顔を向けるよう指示を出す。(T1,T2)
- 性感染症の3つの対策について、具体的な予防方法や対策行動について説明する。(T2)
- 主体の要因を良好な状態に保つことの大切さに気づかせる。(T2)

展
開
3
5
分

<p>展 開 3 5 分</p>	<p>6 20代の自分へメッセージを送る</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をもとに、20代の自分へのメッセージを考える。 <p><予想される生徒の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○検査に行くんだよ ○気をつけて ○誰かに相談した方がいいよ  <p>・発表者の内容を聞く。</p> <p>7 啓発資料や検査について</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なエイズや性感染症啓発資料が発行されていることや、検査を実施している施設について知る。 <p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> エイズ及び性感染症の予防方法を身に付ける必要があること エイズ及び性感染症の感染者が低年齢化し、社会問題となっていること エイズ及び性感染症を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であること 	<p>○これまでの学習をもとに20代の自分へのメッセージを考え、学習カードに記入するよう指示を出す。(T1)</p> <p>○ただ単に「気をつけて」というアドバイスではなく、症状などに触れながら具体的な内容となるよう声かけをする。(T1・T2)</p> <p>◆エイズ及び性感染症の予防について、学習したことを自分たちの生活と比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。【思考・判断②】</p> <p><努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手当て></p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症での学習を思い出させ、性感染症の症状などをヒントに対策行動を考えるよう声をかける。 <p>○数名に発表をするよう指示を出す。(T1)</p> <p>○発表者の方に体・顔を向けるよう指示を出す。(T1,T2)</p> <p>○発表者の内容から新たな発見があった場合、自分の学習カードに書き加えるよう促す。(T1,T2)</p> <p>○啓発資料やポスター、検査を実施している施設についてスライドで説明する。(T2)</p> <p>○保健所、保健センターなどでは無料・匿名でHIV検査を受けられることや、早期に適切な治療を受ければ発病を抑えることができることにも触れる。(T2)</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>8 本時及び本単元のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、今後どのように自身の生活で生かしていくか考え、学習カードにまとめる。 発表者の内容を聞く。 まとめの話を聞く。 今後の見通しをもつ。 	<p>○これまでの学習を振り返り、今後どのように自身の生活で生かしていくか考え、学習カードにまとめるよう指示を出す。(T1)</p> <p>○机間巡視し、生徒の学習の理解度を把握する。</p> <p>○数名に記入した内容を発表するよう指示を出す。(T1)</p> <p>○自分自身だけでなく、大切な人を守っていくためにも感染症、エイズ、性感染症についての正しい知識や予防方法を身に付ける必要があることを押さえ、まとめる。(T1)</p>

(4) 板書計画

2 実践事例2 <安全教育> (草加市立稲荷小学校)

平成30年度「学校安全総合支援事業」安全教育授業研究協議会

研究協議題

「災害時に、自ら危険を回避する行動ができるようにするための指導法の工夫について」

【モデル地域：草加市教育委員会 拠点校：草加市立松江中学校区】

1 はじめに

草加市では、自治会を中心とした避難所運営市民防災訓練が行われ、防災に対する意識が高い。特に松江中学校区の地域では、避難訓練時には公園や駐車場に一時避難し、近所ごとにまとまって避難所に集まるなど、防災意識が高い地域である。防災を中心とした安全教育を推進し研究成果を広めることで、子どもたちが自らの安全を確保するために行動できるようにするとともに、日常的な備えができるようにするなど、児童生徒の防災や安全に関する意識を高めていった。

特に、市内各学校での学校安全推進体制の構築に向け、各学校の安全教育主任の資質向上を図るため、拠点校での授業研究協議会を実施した。研究協議会では、参加者が自校の取組に還元するため、拠点校の取組を共有するなどした。また、上記研究協議題に迫るため、明確な柱を立ててワークショップ形式の協議を行った。

2 授業実践【平成30年11月30日(金)草加市立稲荷小学校 第5学年 特別活動】

(1) 事前指導

- ・本実践では、水害時における危険を予測し自らが危険を回避するために行動できる児童の育成を目指した。そこで、アンケート調査で児童の実態について把握し、授業展開に活かした。
- ・教材として活用する「草加市ハザードマップ」が市から各家庭配布されていることを伝え、保護者とともに確認するよう指導した。さらに、直前に児童にも配布して児童の意識を高めた。



(2) 本時

- ・自分の住む地域の特性や、いざという時にどのように行動すべきかを知り、災害が発生した場合に備え、自分自身の身を守るために考えて行動することについて学習した。
- ・グループ活動では、イメージマップを活用して、4つの観点「自分たちの住んでいる街の様子」「避難について」「備えることについて」「起きそうな被害について」に分担し、水害についてそれぞれが自分事として考え、危険を回避することや備えることについて話し合った。
- ・振り返りでの児童の感想には、「草加市の水害について備えることの大切さがよくわかった」や「水害は川の近くだけでなく、マンホールから水が噴き出る危険もあることが分かった。」などがあった。



(3) 事後指導

- ・授業で活用したワークシートに「草加市ハザードマップ」と本時の授業で話し合った内容をもとに、家庭で保護者と備えについて確認してまとめさせた。
- ・家庭で保護者と確認した備えについて実践させた。

3 研究協議会【参加人数：35人、参加者：草加市内全小中学校の安全教育担当】

(1) 話合いの柱

- ・児童生徒に課題意識をもたせるための授業の工夫
- ・災害時に、児童生徒が自ら危険を回避するために行動できるようにすることや、災害に備えることができるようにするための授業の工夫

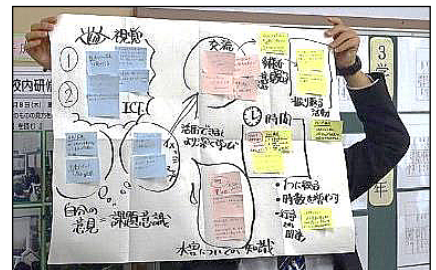


(2) 協議の様子

- ・中学校区ごとのグループに分かれ、付箋を使い「成果・課題・改善策等」について協議を行った。意見が可視化されることで徐々に熱い協議となった。
- ・構造化することで、様々な気づきの本質を捉えることや、課題や解決の方向性を見出すことができ、共通理解を図ることができた。

(3) 各グループの意見

- ・導入時には、アンケート結果の活用や自分の住む町の災害時の様子を写真で見ることで、児童が自分事として捉え、課題意識をもたせる工夫が見られた。
- ・イメージマップの作成では4つの観点に分かれ考えをまとめ、班で情報共有する際には、活発な意見交換が行われていた。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・学校安全推進体制の構築に向け、各学校の安全教育主任が情報の交換・共有を図ることができた。
- ・「草加市ハザードマップ」を活用した授業の実践方法を知ることができ、授業改善に役立てることができた。

(2) 課題

- ・児童生徒だけでなく、家庭における防災・安全意識も高められるよう、児童生徒が家庭に持ち帰って話題にできる授業づくりを実践する必要がある。
- ・「草加市ハザードマップ」について、事前学習や必要な情報を取捨選択など児童生徒の発達段階に応じた活用をする必要がある。

5 おわりに

今後さらに草加市の安全教育推進のため、各学校が作成した指導案等の資料を電子データで共有し、各学校が自校の授業改善に役立つような取組をより充実させていく。

3 実践事例3 <食に関する指導> (上尾市立上尾小学校)

平成30年度 埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会

研究テーマ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の創造
～食育を通して主体的にたくましく生きるために～
上尾市教育委員会【実践校 上尾市立上尾小学校】

第6学年3組 家庭科学習指導案

平成30年10月25日(木) 第5校時 教室

指導者 T1 教諭 川久保 亜弥 T2 栄養教諭 八ツ田 千恵

1 題材名 くふうしよう おいしい食事 お・も・て・な・し大作戦!! ～家族が喜ぶおいしい食事をつくろう～

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、5学年で「家族とほっとタイム」の題材で、家族との団らんの工夫を学び、実践を通して学習している。6学年1学期の「いためてつくろう朝食のおかず」では、卵料理と野菜炒めを手際よく作ることができ、全員が協力して調理実習を終えることができた。

本題材では、食事をする際には、栄養のバランスだけでなく、誰と一緒に食べるのか、楽しく食事をするためにはどんなことに気をつければよいのかを考え、楽しく会食ができるようになってほしいと考える。そこで、家族に「おもてなし」をするメニューを考え、家庭での実践で家族に「おもてなし」をすることをゴールに設定した。

(2) 教材観

本題材は、学習指導要領 B 日常の食事と調理の基礎 「(1) ア 食事の役割を知り日常の食事の大切さに気付くこと」及び「(2) ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること」「イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること」「ウ 1食分の献立を立てること」の内容を受けて設定したものである。本学習を通して、これまでにできるようになった料理を組み合わせることでバランスのよい食事になることや、これらの料理を工夫して組み合わせることで、様々なバリエーションを作れることに気付かせる。また、料理を作ることに自信をもたせ、家庭実践につながるようにする。

(3) 指導観

指導にあたっては、各自が大好きな家族に向けてテーマに沿った1食分の献立を考え、同じテーマを選んだ同士で助言をさせる。代表者が全体での発表を行い、栄養教諭が献立を立てるポイントについて助言を行う。題材の最後には、児童が家族のために考えたメニューを実際に家庭で調理し、家族へのおもてなしを行う。児童が家族への「おもてなし」を行うことをゴールとして設定することにより、より主体的に学習に取り組むことができると考える。また、学校での調理実習を「おもてなし」につながる活動として行い、各自が家庭で本番の「おもてなし」を行うことで、学校での学習が活かされ深い学びへとつながるのではないかと考える。各自が目標や課題をもって計画をすることによって、喜びを実感させたい。

3 本時の学習指導(本時 2/12時)

(1) 本時の目標

・家族のことを考え、1食分の献立を立てようとしている。 <家庭生活への関心・意欲・態度>

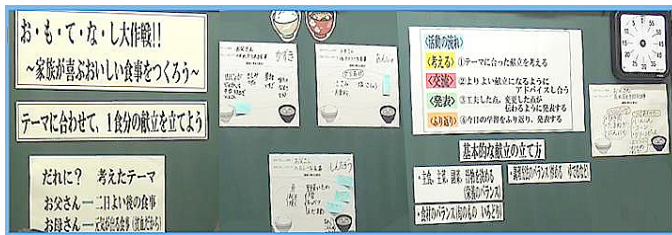
(2) 食育の視点

・様々な食品にはそれぞれ栄養的な特徴があることを知り、それらを上手に組み合わせることで、栄養バランスの良い食事となることが理解できる。(心身の健康)

(3) 展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価 支援 *食育の視点 《主体的・対話的で深い学びのための方策》		資料	
		T 1 (学級担任)	T 2 (栄養教諭)		
3	1 ゴールの確認をする。	○前時で学んだことの復習をし、ゴールの再確認をする。		大型モニタ ワークシート	
お・も・て・な・し大作戦!! ~家族が喜ぶおいしい食事をつくろう~					
3	2 本時の課題を確認する。	○家族のためにオリジナルで1食分の献立を考えることを伝える。			
テーマに合わせて、1食分の献立を立てよう。					
10	3 各自で食品を選び、家族のために1食分の献立を立てる。	○おもてなしをする相手を想像しながら、どんな食材を選ぶかを考え、個人で立ててみるように助言する。			
【主体的な活動のための方策】・大好きな家族に向けての献立を考える。!					
◆家族のことを考え、1食分の献立を立てようとしている。〈関〉 支援 【行動観察・ワークシート】					
<ul style="list-style-type: none"> ・B→Aへの手立て 調理の方法や見た目のバランス、味の付け方についても考えさせる。 ・C→Bへの手立て 家族が好きなものを思い出したり、給食の献立を参考にしたりするように助言する。 Cの児童…手が止まってしまい、何も書いていない。 Bの児童…1食分の献立を立てることができる。 Aの児童…調理法や見た目のバランス、味の付け方についても考えている。 					
10	4 同じテーマを選んだ者同士でグループを組み、アドバイスをする。	○考えた献立を見せ合い、グループで助言し合う。			
【対話的な活動のための方策】・友達と対話して献立を修正する。					
7	5 何人かの献立を全体で発表する。	○献立の工夫点が伝わるように発表させる。			
7	6 発表したものを全体で確認する。	○献立作りで大切なことを確認する。 ○本時を振り返り、感想を発表させる。			
*様々な食品にはそれぞれ栄養的な特徴があることを知り、それらを上手に組み合わせることで、栄養バランスの良い食事となることが理解できる。(心身の健康)					
5	7 本時の学習を振り返り、次時の学習予定を知らせる。	○次時はテーマごとのグループで実際に調理するものの計画を立てることを伝える。			

4 板書計画



5 資料 ワークシート

